

邇摩高辞書

『国語表現入門』を履修している1年生が、先日「邇摩高辞書」づくりの授業を行ったようです。生徒の各担当者がそれぞれの分野で詳しい教職員を回り、調査して「邇摩高辞書」を完成させ校長室にも持ってきてくれました。校長室にもインタビューに訪れ、何代目の校長か？一日のスケジュールは？邇摩高生として大切にしてほしいこと等々を聞き、辞書としてまとめていました。

この時期になると、流行語大賞とか今年を漢字一文字で表すことなどどのように日本語として表現するかが話題になります。また、業界用語などといわれるように、その組織や集団で独特に表現され、使われることばも多く存在しています。今回の「邇摩高辞書」も本校でのみ使われるいわゆる業界用語をまとめたものでした。

一例を挙げると、

○系列ポロ・・・3年生の各系列の代表5人が希望を出して色が決まった系列ごとのポロシャツ。平成26年から系列の色が決まった。生活系列は赤、文化は黒、福祉は青、ビジネスは紫、農業は緑。

○銀哲^{ぎんてつ}・・・『銀の哲学』という授業の略称。3年生が行っている授業。自分を理解して確かな将来のための土台作りをする。自分を育て、自分を伸ばすための授業。

○5時はや・・・17時2分の大田方面行きのJR。邇摩高生が下校でよく利用する列車。

○仁心の庭・・・仁心とは、邇摩高校の伝統精神の一つ。仁心は人を愛する心、人を深い愛をもって思いやるという意味。砂利はレーキといわれる爪がついた農業用具であとをつけている。雑草は伸びてきたところで定期的に、庭は毎週1回手入れをしている。仁心の庭は枯山水といって、水のない庭で砂利を使って水の流れを表現している。波紋が広がるように円形に輪が広がるように描いている。

○NS ファイル・・・新聞の感想を書いたものをまとめるファイル。色はピンク。内容を理解しながら読む力がつく。

○進設・・・将来の進路について考える授業。「進路設計」の略称。アポイントメントをとる練習などインターンシップの準備をしたり、自分の将来について考えたりする。2年生の授業。

このようにして35の業界用語が解説してありました。

この「邇摩高辞書」を持ってきてくれたときには、私は不在でしたので、校長室の机上手紙と一緒に置いてありましたが、この手紙も丁寧に書かれており感心しました。ペンで丁寧に書いてありましたが、おそらく鉛筆で下書きをして、ペンで書いてから下書きを消したのでしょうか。新たな発見があったことと取材への協力のお礼が簡潔に書かれていました。生徒のこの心意気に私も万年筆を取り出し、お礼の手紙を書きました。

11月19日、2年生の選択授業『現代文A』では、「日本語エクササイズ—暮らしの中の言葉—」の単元で、変遷していく言葉の中で、おかしな表現や若者言葉にふれながら、それぞれの場面にふさわしい言葉について考える、という授業を行っていました。その中で若者言葉の意味をやっていたのですが、私は全く分かりませんでした。皆さん分かりますか？

※意味を書きなさい 1. 草生える 2. それな、わかりみが深い 3. 乙 4. フロリダする

私たちの使用する言葉には同じ意味を表す場合にも、その時々文体にあわせて複数の形式が用意されていて、場面によって適切な形式が選ぶことができるようになっているようです。いろいろな言葉があっても文章に使用されるのは、それにふさわしい形式であり、会話専用の言い方は文章には適さないということです。教員が準備した会話での言い方の作文を、文章に適する言葉に直すということを生徒たちは取り組んでいましたが、「これ、作文じゃない！」と声が上がりがりながら、正しい文章に直していききました。生徒が日常的生活で使用する言葉遣いや敬語に関しての理解を深め、自らの語彙を広げ、その場その時に応じて適切な言葉や文章が使える実践的な言語適応能力を高めてほしいと思います。

これらの取り組みは、ささやかな取り組みではありますが、このような実践をとおして一步一步成長してくれることを願っています。